

生殖補助医療自動化システムの開発（株式会社アークス）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
東京都渋谷区	2022年	棚瀬 将康	https://www.arcs-inc.jp/

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
株式会社ディープコア	プレシードラウンド	非公開

会社連絡先：tel: 03-5801-6357

ホームページリンク：<https://www.arcs-inc.jp/>

○事業概要

人工知能（AI）とロボティクスの技術を活用し、誰もが安全で質の高い不妊治療を受けられる世の中の実現を目指している。特に、生殖補助医療クリニックにおいては胚培養士がヒトの精子や卵子を扱い、授精や培養作業を行っている。この作業は胚培養士の人手不足の課題や、術者の熟練度の違いによって臨床結果にばらつきがあるという課題がある。こういった課題に対し、作業中の判断支援AIや作業自動化システムにより、医療従事者の負担を軽減し、治療の成功率を高める（＝妊娠率を向上させる）ことが本事業の目的である。

○事業内容

本研究開発では下記をコア技術として活用することにより医療従事者の負担を軽減し、治療の成功率を高めることを目的とする。
助成事業期間終了時点の目標は下記の通りである。

- (1) 精子選別AI
 - ・精子の画像データ収集を行い、熟練の術者以上の選別精度を達成する。
- (2) 自動化システム
 - ・自動化システムのマウスによるPoCが完了し、量産試作品の評価試験が完了していることを目標とする。

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
ヘルスケア	STS 2023～2024年度	109百万円	—

○海外技術実証

予定なし

分子標的農薬プラットフォームを利用した新規農薬の創出加速（株式会社アグロデザイン・スタジオ）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
千葉県柏市	2018年	西ヶ谷 有輝	https://www.agrodesign.co.jp

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
リアルテックファンド	シリーズA	1,000百万円

会社連絡先：

tel: 04-7180-0290

e-mail: info@agro.design

ホームページリンク: <https://www.agrodesign.co.jp>

○事業概要

世界人口の増加が続く現代において、農作物増産のために効果の高い農薬を開発することは重要であるが、同時に安全性が高い農薬も求められている。効果と安全性が両立できる農薬として『分子標的農薬』が有望視されている。このタイプの農薬は、防除対象生物（雑草・害虫・植物病原菌）にのみ存在する酵素（タンパク質）をターゲットとすることで、対象生物のみに効果を発揮することができる。

分子標的農薬の利点は以前より言われていたが、それを実現する技術的ハードルが高かった。そこで、本事業では、分子標的農薬の開発を行うためのプラットフォームを確立することで、当社の創農薬に役立てると同時に国内外の農薬会社に技術提供することにより、安全安心な農薬の創出加速を図る。

○事業内容

本事業では、分子標的農薬の開発において最も大きな技術的課題である、薬剤ターゲットとなる酵素（タンパク質）の3次元立体構造解析を効率的に行う環境（プラットフォーム）を整備する。さらに、そのプラットフォームを活用し、実際に殺虫剤の創農薬を行う。

具体的なプラットフォームの内容として、①膜タンパク質の構造解析を迅速に行う環境（X線結晶構造解析、クライオ電子顕微鏡を利用）、②計算機創農薬（分子動力学シミュレーションやAI創薬手法）、③農薬実験DX（ロボットやAIを活用した実験の自動化）を行える環境を整備する。

さらにこれらを活用し、膜タンパク質などの高難易度な農薬ターゲットタンパク質に対する創農薬を実施する。

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
食・農業	STS 2023～2024年度	208百万円	—

○海外技術実証

予定なし

2024年2月現在

超効率核酸合成メソッドの自動装置化（東京核酸合成株式会社）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
東京都文京区	2022年	岡本晃充 松井雅章	https://www.tkg-na.com/

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
リアルテックホールディングス株式会社	シード	300百万円

会社連絡先：tel: 050-5375-0508
e-mail: contact@tkg-na.com

ホームページリンク
<https://www.tkg-na.com/>

○事業概要

「じゃぼ漬け法」と呼ばれる浸漬式固相合成法の実用化を進めます。本合成法では、大量合成可能、低コストかつ環境負荷の少ない核酸合成物の製造が可能だと想定しております。本事業を実用化することで、核酸医薬品市場等の核酸マテリアルの拡大へ貢献します。

○事業内容

本事業では、浸漬式固相合成法を利用した自動合成装置のプロトタイプ機を作成し、下記に掲げるPoCの達成を目指す。

- ①プロトタイプ機でのミリグラムスケールでの合成
- ②従来の固相合成法対比50%未満の反応試薬量での合成
- ③当社独自の新機能性核酸の合成

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
素材・材料	STS 2023～2024年度	80百万円	—

○海外技術実証

予定なし

2024年3月現在

多段階反応系による有用化合物の微生物発酵生産に係る実用化研究（ファーマランタ株式会社）



Fermelanta

所在地	創設年	創設者名	ホームページ
石川県野々市	2022年	柘崎 庄吾 南 博道 中川 明	https://fermelanta.com/jp

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
Beyond Next Ventures株式会社	シード	800百万円

会社連絡先：e-mail: info@fermelanta.com

ホームページリンク

<https://fermelanta.com/jp>

○事業概要

自然由来の複雑な化学構造を有する化合物は、人類の健康増進に有用な成分を多く含むが、化学的な反応による全合成が難しく、効率的且つ安価な大量生産手法がない。微生物に多くの外来遺伝子を導入し、機能的に酵素を発現し、それらを体系的に生命システムとして制御するという技術的課題をクリアすることで、連続的な酵素反応による多段階の生合成経路を構築し、目的化合物のみを高効率に生産する産業用人工微生物の構築のための基盤技術の開発、並びに社会実装を実現する。

○事業内容

本研究開発では、供給量が限定的で商業的需要があり、特に複雑な生合成経路を必要とするモデル化合物を事例として、独自の多段階遺伝子導入技術に加え、代替となる生合成経路の構築や菌株内の代謝システムの改良によって技術的課題の解決を図る。プロトタイプ株の作製とその最適化実験を通じて、実験室用培養装置により、実用レベルの生産収量（培養液1リットル当たりグラムオーダー）の達成を目指す。

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
素材・材料	STS 2023～2024年度	192百万円	—

○海外技術実証

予定なし

2024年2月現在

mRNA等を免疫細胞選択的に送付する薬剤送達カプセルの開発（ユナイテッド・イムニティ株式会社）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
東京都中央区	2017年	原田直純	https://unitedimmunity.co.jp/

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
東京大学エッジキャピタル	シリーズB	2,420百万円

会社連絡先：tel: 03-6265-1670
e-mail: info@unitedimmunity.co.jp

ホームページリンク: <https://unitedimmunity.co.jp/>

○事業概要

mRNAワクチンや核酸医薬は、世界中で激しい開発競争が進んでいる。核酸を細胞に届ける従来の薬剤伝送カプセルは、副作用、保存安定性、細胞選択性の低さと、海外特許への抵触リスクという課題があった。我々はこうした課題を解消する新しい技術を発明し、免疫細胞への高い集積や薬効の高さ、既存特許の回避を示した。本事業では、本技術の有効性・安全性・安定性の最適化を進めてワクチン又は医薬品としてのプロトタイプを樹立し、大量生産に向けた製造技術を開発する。

新型コロナウイルスに次ぐ、次のパンデミック等の社会課題に、国産技術での課題解決を目指す。

○事業内容

本研究開発では、独自脂質を用いたカプセル組成の最適化によって、既にmRNAワクチン等で実用化している技術に対する差別化点を蓄積する。独自脂質の開発においては、北海道大学と共同研究を実施する。下記項目が、研究開発項目である。

- ①製剤組成の最適化
- ②細胞や動物でのコンセプト検証（薬理実験）
- ③細胞や動物での安全性検証
- ④スケールアップ可能な製造法の確立

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
ヘルスケア	STS 2023～2024年度	300百万円	—

○海外技術実証

予定なし

深層学習に基づく非侵襲的大腸がんスクリーニングシステムの開発（Boston Medical Sciences株式会社）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
東京都中央区	2023年	岡本 将輝	https://b-ms.tech

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
Beyond Next Ventures株式会社	シードラウンド	1,000百万円

会社連絡先：tel: 070-6993-6006
e-mail: info@b-ms.tech

ホームページリンク
<https://b-ms.tech>

○事業概要

大腸がんは、世界のがん種別罹患数2位・死亡数2位（日本：罹患数1位・死亡数2位）と、極めて疾患負荷の大きい悪性腫瘍であり、今後20年間で罹患数・死亡数ともに約1.6倍に増加することが見込まれている。大腸がんは早期発見と早期治療介入により、がん死を回避し、生命予後を十分に改善できるにも関わらず、事態が悪化している背景には、「下部消化管の精密検査は忌避されやすい」という事実がある。大量の下剤服用を伴う前日からの検査準備、肛門からのファイバー挿入、鎮静トリカバリなど、精神的・身体的侵襲性の高さがその原因となる。

我々は完全無下剤で施行することのできるバーチャル内視鏡検査を実現することで、この「検査忌避問題」を解決し、早期発見と早期治療介入の促進による「大腸がん死の根絶」を目指す。

○事業内容

本研究開発では、大腸CT画像に対して、深層学習アプローチによる仮想的腸管洗浄および自動でのポリープ検出を行うプログラム医療機器の開発を行う（製品名: AIM4CRC）。従来、臨床的に実現が困難であった「完全無下剤でのバーチャル内視鏡検査」を実装することにより課題の解決を図る。STSフェーズにおいては本品プロトタイプ版を完成させ、下記のPoCを達成することで2025年度からの治験・薬事承認申請へとつなげ、早期の国内および国外臨床実装を目指す。

- ① 国内医療機関における、大腸ポリープの検出精度評価（汎化性能検証）と臨床的有効性の実証
- ② 米国医療機関における、本品による読影支援が医師の検出精度を改善させることの実証

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
ヘルスケア	STS 2023～2024年度	190百万円	日本、米国、欧州、中国、を中心に世界のあらゆる国・地域

○海外技術実証

・海外事業会社/大学等との委託・共同研究

AIM4CRCの米国における臨床的有用性を実証し、FDA承認取得への基礎データとするため、前臨床試験としてのオブザーバー試験(読影試験)を実施する。検証する仮説は「大腸CT検査における読影をAIM4CRCが支援することにより、放射線科医の大腸がんおよびポリープの検出性能が向上する」となる。

下剤を用いていない検証用データセットを用いて、「セッションA: AI非支援読影」と「セッションB: AI支援読影」を行い、その検出性能を統計学的に比較する。なお、全ての患者情報および疾患有病率情報は盲検化し、両セッションには一定のウォッシュアウト期間を設定する。

運動負荷量最適化機能と心臓リハビリプログラム医療機器の開発（株式会社 CaTe）

CaTe inc.

所在地	創設年	創設者名	ホームページ
東京都文京区	2020年	寺嶋 一裕	https://cate.co.jp/

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
ジャフコグループ株式会社	シリーズA	1,115百万円

会社連絡先：tel: 03-6273-8578
e-mail: cate1@cate.co.jp

ホームページリンク
<https://cate.co.jp/>

○事業概要

心臓リハビリテーションは心疾患患者に対して治療効果が証明されていますが、日本では外来心臓リハビリテーションへの参加率は約4～8%と低く、結果として心疾患患者の多くが再入院を繰り返し、社会全体としても医療費負担が発生しています。

CaTeは、心疾患を含む様々な患者様に対して、適切な運動療法と行動変容を提供することで、多くの患者様が自宅でもより良い医療を受けられる環境を作り、より健康な未来を創ることを目指しています。

○事業内容

本研究開発では、運動負荷量の最適化機能を開発し、有効性と安全性を兼ね備えた立位での運動療法を実現する心臓リハビリテーションプログラム医療機器を開発します。

- ①運動負荷量最適化機能の開発
- ②①を搭載した心臓リハビリテーションプログラム医療機器の開発
- ③探索的医師主導試験の実施
- ④プロトコル作成を含む検証的治験の準備

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
ヘルスケア	STS 2023～2024年度	191百万円	—

○海外技術実証

予定なし

2024年2月現在

高頻度宇宙実験・回収事業に向けた回収型宇宙実験システムの開発（株式会社ElevationSpace）



○事業概要

今後拡大が期待される低軌道での宇宙活動に必要な宇宙機部品やサービスを軌道上において実証し、宇宙環境を活用した理工学実験や、物資の試作・製造を行うことが可能な自律的プラットフォームを提供し、また宇宙実験や物資の試作・製造の結果（プロダクト）を地上へ回収して顧客へ返却するという一気通貫のサービスを提供することを目的とする。

○事業内容

本研究開発目標として、下記に掲げる主要な要素技術にかかる研究開発課題の解決により、事業化に必要なコア技術の獲得を目指す。

- ①低軌道宇宙実験・製造を可能とする小型衛星バスシステム技術の獲得
- ②再突入技術の獲得
- ③回収技術の獲得
- ④安全・再利用技術の獲得

所在地	創設年	創設者名	ホームページ
宮城県仙台市	2021年	小林 稜平	https://elevation-space.com/

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社	シードエクステンション	非公開

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
宇宙	STS 2023～2025年度	291百万円	—

会社連絡先：tel: 022-795-6991
e-mail: info@elevation-space.com

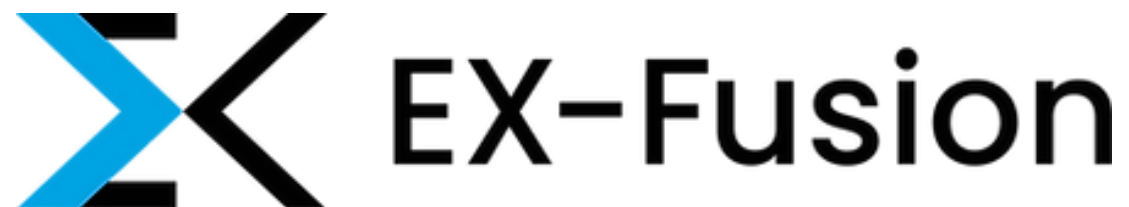
○海外技術実証

予定なし

ホームページリンク
<https://elevation-space.com/>

2024年1月現在

ハイパワーレーザー加工機による難加工材の高精度高速加工の実現（株式会社 EX-Fusion）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
大阪府吹田市	2021年	松尾 一輝 森 芳孝 藤岡 慎介	https://ex-fusion.com/

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
株式会社デライト・キャピタル	シード	非公開

会社連絡先：tel: 050-5526-7508
e-mail: info@ex-fusion.com

ホームページリンク
<https://ex-fusion.com/>

○事業概要

本事業では、世界初のダブルワブリング工法によるレーザー切断加工方法を使用して、「スピード」と「品質」の両立が難しかったCFRPのレーザー加工装置を開発する。コストや品質が重視され、今後市場拡大が見込まれる自動車業界を初期ターゲットとし、その後航空機分野への適用拡大を目指す。

○事業内容

本研究開発では、ダブルワブリング工法によるレーザー切断加工方法を、ハイパワーレーザーを用いて実現する。ハイパワーレーザーを効率よく効果的に利用するために、下記の開発項目を実施する。

- ① レーザ加工ヘッドの開発
- ② 加工ヘッド駆動装置の開発
- ③ レーザ照射条件の最適化

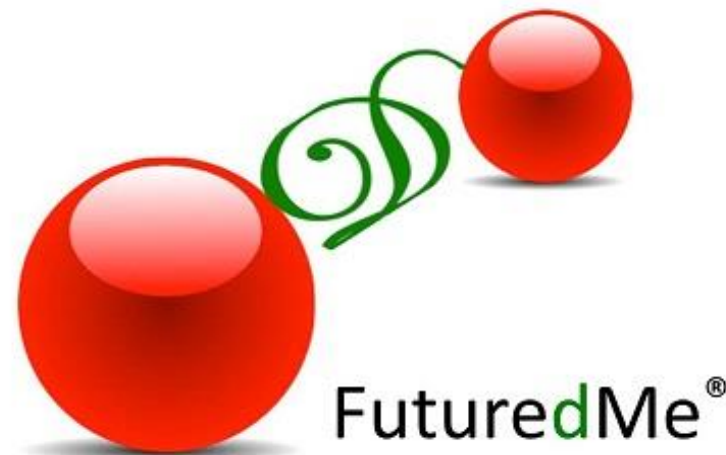
事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
素材・材料	STS 2023～2024年度	200百万円	—

○海外技術実証

予定なし

2024年3月現在

CANDDYによる疾患特異的分解創薬支援プラットフォーム構築（株式会社FuturedMe）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
東京都中央区	2018年	宮本 悦子	https://futuresme.com/jp/#secMV

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
株式会社ケイエスピー	シリーズA	非公開

会社連絡先：tel: 04-7197-6230

ホームページリンク

<https://futuresme.com/jp/#secMV>

○事業概要

プレジジョン・メディシン時代のゲノム医療で、病気の原因分子（標的）が判明しても、標的に治療薬がない問題（ペイン）の解決が必要。そのための技術である次世代分解創薬CANDDYの技術参入障壁を高め、差別化プロトタイプ確立と、市場拡大と副作用軽減を両立した疾患特異的分解創薬支援プラットフォームを構築する。

○事業内容

本研究開発では、免疫プロテアソーム選択性により、正常細胞では作用しないが、がん細胞でだけ標的分解できる分解創薬技術として、「免疫CANDDYプラットフォーム」を構築する。

- ①正常細胞と疾患細胞の分解の指標（DC50）の差を示す。
- ②天然変性タンパク質の分解を示す。
- ③CANDDY分子の初期プロトタイプのPOCを示す。

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
ヘルスケア	STS 2024～2025年度	61百万円	ワールドワイド、特に米国

○海外技術実証

- ・海外事業会社/大学等との委託・共同研究

STSでは、日本の製薬会社に有識者になっていただき、PCAで「関心表明書」をいただいて、パートナーリングを実現していく予定。米国やヨーロッパなどの製薬企業ともコンタクトを取っていき、卒業後に、海外製薬会社とのパートナーリングの予定。

2024年2月現在

超小型宇宙機に対応した超小型ハイブリッドスラスタの開発（Letara株式会社）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
北海道札幌市	2020年	平井 翔大 KAMPS Landon 永田 晴紀	https://www.letara.space/

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
SBIインベストメント株式会社	プレシード	非公開

会社連絡先：tel: 011-600-6840
e-mail: info@letara.space

ホームページリンク：<https://www.letara.space/>

○事業概要

人工衛星などが宇宙空間で大規模な移動を行うためには推進力の大きな推進系（エンジン・スラスタ）が求められるが、従来までは、毒性・可燃性・爆発性の高い非常に危険な推進剤が用いられてきた。Letaraでは、北大発スタートアップ企業として、これまで燃料にプラスチックを利用したハイブリッド化学推進の技術を研究開発してきた。この技術を応用することで、世界で初めて安全性と推力を同時に満たし、小型人工衛星に移動の自由を与えるための革新的な推進系（エンジン・スラスタ）を実現する。

○事業内容

本研究開発では、これまでLetaraで開発してきたハイブリッド化学推進の技術をもとに、超小型サイズに収まるよう最適化する。北海道大学より正式にライセンスを受けた技術を用いて、プラスチックを燃料とした安全かつ高推力なハイブリッド化学推進（エンジン・スラスタ）の開発を行い、事業化に向けたPoCを実施する。

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
宇宙	STS 2023～2024年度	236百万円	—

○海外技術実証

予定なし

2024年2月現在

長距離量子中継システムの開発と市場創出（LQUOM株式会社）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
神奈川県横浜市	2020年	新関 和哉	https://lquom.com/

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
SBIインベストメント株式会社	シリーズA	1,800百万円

会社連絡先：e-mail:contact@lquom.com

ホームページリンク：<https://lquom.com/>

○事業概要

LQUOMはLong-Distance Quantum Communicationから命名されており、長距離量子通信に必要な「量子中継システム」のハードウェア開発を行っております。量子通信の応用としては量子鍵配送が有名です。情報理論に基づく最高の通信セキュリティにより、“Harvest now, decrypt later攻撃”（将来的な計算能力向上まで暗号文のまま保持）に備えることも可能となります。当社で開発する量子中継システムにより「量子もつれ状態」が生成できるため、鍵配送以外の応用として量子テレポーテーションや世界時計なども可能となるような、まさに量子インターネットと呼べるネットワークに拡張されます。そのような技術革新を目指し、LQUOMでは量子力学/光学等最先端技術を専門とする物理学博士を中心に据えて、長距離量子通信ハードウェアを日進月歩で開発して参ります。

○事業内容

本研究開発では、これまで培ってきた研究成果を元にして、量子もつれ光源・量子メモリ・インターフェース技術の開発を進める。これらは、量子中継器の製品開発のために不可欠な要素技術である。併せて、量子もつれ光源を初期製品として、グローバルでの市場調査と顧客開拓を行う。

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
情報・通信	STS 2023年～2025年	402百万円	—

○海外技術実証

予定なし

2024年3月現在

量産ハイブリッドロケットシステムの開発（株式会社MJOLNIR SPACEWORKS）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
北海道札幌市	2020年	ビスコア・ツール	https://mjolnir-sw.com/

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
リアルテックファンド	シード	580百万円

会社連絡先：tel: 050-5879-9964

ホームページリンク：<https://mjolnir-sw.com/>

○事業概要

当社はロケットの性能を決める主要コンポーネントであるロケットエンジンをより多くのロケット開発機関・企業に提供するため、ハイブリッドエンジンの量産を目指している。本事業はこの量産ハイブリッドエンジンを実用レベルまで高性能化させたうえで打上実証によりエンジン性能を実証することを目指す。

○事業内容

本研究開発では安全性と量産性に優れたハイブリッドロケットエンジンを用いたロケットシステムを開発することで課題解決を図る。またハイブリッドロケットエンジンを使用した実証打上げ用の観測ロケットを開発する。

また、打上げ実証試験を行なうことでエンジンおよびロケットシステムの性能を実証する。

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
宇宙	STS 2023～2024年度	168百万円	—

○海外技術実証

予定なし

2024年3月現在

カイコバイオ原料の量産・海外展開による、日本発素材産業の創出（Morus株式会社）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
東京都品川区	2021年	佐藤 亮	https://morus.jp/jp

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
株式会社DG Daiwa Ventures	プレシリーズA	非公開

会社連絡先：tel: 050-5896-2681

ホームページリンク：<https://morus.jp/jp>

○事業概要

日本が世界トップクラスの研究技術を誇るカイコを、バイオ原料、直近では主に食品たんぱく原料として海外展開する。カイコは他の昆虫にない独自の機能性成分を持ち様々な市場に進出可能であること、家畜化された昆虫ゆえ量産適性が高いなどの特徴を持っており、食という日本が強みを持つ分野の技術・ブランドと併せ、日本発の素材産業創出を目指す。

○事業内容

本研究開発では、カイコを食品として利用するにあたり、次の事項に資する研究開発に取り組む。

- ①カイコ由来食品原料の高付加価値化
- ②カイコ由来食品原料の量産化
- ③カイコ由来食品原料、およびそれを含有した食製品の海外展開

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
食・農業	STS 2023～2025年度	217百万円	シンガポール、米国

○海外技術実証

- ①海外事業会社/大学等との委託・共同研究、②自社の拠点を海外に設立もしくは設立予定、③研究開発、事業開発などを現地パートナーと提携もしくは予定、④海外を含めたサプライチェーンの構築を予定

弊社進出予定国のシンガポールにて現地パートナーを確保済みであり、自社拠点も2023年度中に設立予定である（②,③）。また、協業中のパートナーとは、シンガポールでの実証が済んだのちはASEAN等世界各国に展開する前提で協業をしている（④）。

同時に、もう1つの進出予定国である米国にて、現地の大学と共同研究を実施中（①）であり、今後の米国展開における基盤を構築中である。

2024年2月現在

共振器QED方式を用いた量子リピーターの研究開発（株式会社Nanofiber Quantum Technologies）



所在地	創設年	創設者名	ホームページ
東京都新宿区	2023年	廣瀬 雅 青木 隆朗 碁盤 晃久	https://www.nano-qt.com/

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
早稲田大学ベンチャーズ株式会社	非公開	非公開

会社連絡先：tel: 070-4006-8333

e-mail: dai.tsukada@nano-qt.com

ホームページリンク

<https://www.nano-qt.com/>

○事業概要

量子インターネットは量子コンピュータ・量子通信を統合する量子技術の究極系である。本事業では世界唯一の方式であるナノファイバー型共振器QED方式にて、量子インターネットの中核である量子リピーターを開発し、日本発方式での世界標準技術の確立と社会実装を目指す。

○事業内容

本研究開発では、共振器QED系を用いた量子リピーターを開発することで、既存の情報通信とは異なる絶対安全性を保障する光通信ファイバー網の実現に向けた基盤技術の実装する。そのため下記に掲げる開発項目を実施することで目標達成を目指す。

- ①通信波長帯域での低損失ナノファイバー共振器の製造
- ②ナノファイバー共振器近傍にトラップされたYb原子配列の開発
- ③通信波長帯域での論理ゲート操作の実装
- ④事業戦略及び法規制、標準化活動に関する調査

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
情報・通信	STS 2023～2025年度	492百万円	アメリカ（カリフォルニア州、メリーランド州）

○海外技術実証

・海外事業会社/大学等との委託・共同研究

NanoQT Inc.:

拠点調査、米国の市場環境や技術実証に関するフィジビリティ調査

メリーランド大学:

量子リピーターを使用した量子ネットワークの応用例の探求とYb共振器QED系を用いた小規模な量子ネットワークの具体的な検討

動脈硬化性急性期脳梗塞治療デバイスの事業化（株式会社T.G.Medical）

○事業概要
非公開

○事業内容
非公開

所在地	創設年	創設者名	ホームページ
東京都中央区	2020年	坂野恒平	非公開

パートナーVC	直近の資金調達ラウンド	企業価値
Beyond Next Ventures株式会社	非公開	非公開

事業領域・分野	助成事業年度	交付決定額	海外技術実証
ヘルスケア	STS 2023～2024年度	非公開	—

○海外技術実証

予定なし

会社連絡先：非公開

2024年2月現在